

令和8年度 第2回 南箕輪村地域公共交通会議

南箕輪村地域公共交通協議会

議 事 録

日 時：令和8年8月18日(火) 9:30~12:00

会 場：南箕輪村役場 2階 講堂

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・田中会長よりあいさつ

3. 協議事項

(1) 南箕輪村地域公共交通計画の見直し箇所について

- ・事務局より、資料に基づき説明

●百瀬委員
(村議会)

議会特別委員会中間報告では、特に時間的な空白と、従来利用していた方への代替手段が不十分であるということを指摘した。補助金についても、持続性のためには一体として考えていく必要がある。今年度法改正があるということなので、それも含めて考えることが必要。

●事務局

今まで使っていた方の足としての補完と、特に日中の空白という点についてですが、具体的にその解決策としてどう施策を展開するか、という話は、公共交通計画がある以上、計画を見直したうえで進めていく。それぞれの検討にあたっては、委員の皆様と一緒に考えたい。

●渡邊委員
(北陸信越運輸局)

本年度の法改正について、公表されているものだと、スクールバスの活用など、連携により地域交通を確保していくようなものがあるが、補助金に関してはこれから具体的に決まってくる。現時点では回答が難しい。

●倉澤委員
(大芝区長)

具体的な施策展開の部分について、例えば、地方自治体が主導する公共ライドシェアなどを立ち上げるなどの可能性が考えられるのではないかな。会議の場でこういったものを検討し、事業者とも調整したうえでということになるが、運用可能ではないか。

●事務局

具体的に提案をいただいてありがたい。交通系の施策についてはいくつか枠組みがあり、それぞれメリットデメリットなどある。次回の会議にて、そのあたりをご説明する予定としているので、また積極的にご意見いただきたい。

●百瀬委員
(村議会)

タクシーについては、ぐるっとタクシーを伊那市、デジタルタクシーは箕輪町もやっている。南箕輪村としても、同じ伊那タクシーさん、白川タクシーさんに依存せざるを得ない。また、受益者負担についても考える必要がある。事業者さんとしては、台数、DXの取り組みなどあると思うが、現状はどんなものか。

●事務局

ぐるっとタクシーの現状としては、利用状況はあまり伸びていない。具体的な数字の資料は用意していない。

●白川委員
(白川タクシー)

ぐるっとタクシーは乗合タクシー事業であり、JRバスさんも高遠地区で一部かかわっておられるが、現状はかなり過密状態。4月に1台増車して、だいぶ改善した。
ただ、手荷物や、経路について干渉するなど、利用上のルールを守っていないケースが依然として散見され、非常に困っている。
また、伊那の中心市街地ではデジタルタクシー、箕輪町ではまちなかタクシーとして、一般タクシーの利用に対する運賃補助を行っているが、低料金でタクシーが利用できるため、一般タクシーの供給能力に対する利用需要が飽和しており、一般の利用者も含めて待ち時間が20分、日によっては30分など発生するような状態。
今後も需要が増えていくと予想されるが、それに対応できるだけのキャパシティがない状況であるので、タクシー事業全体として、見直しを図っていかないと、単純に南箕輪へ広げるのは厳しいと見通している。

●藤松委員

村民にとって納得感のある施策が、どんなものができるかというのはまだ疑問である。現在のまっくんバスのコースについて、本格運行の前に実証運行をしたのか。

●事務局

通学通院支援バスという性格上、学年の始まる4月というタイミングで運行開始という形をとった。特段、実証運行はせずに運行開始という形。

●藤松委員

長野日報でチョイソコ中川についての記事を見て、事務局でも検討されていると思うが、他自治体と協議や情報交換するなどして、良いところは取り入れるようにしていったらよいのではないか。

●白川委員
(白川タクシー)

チョイソコについて話が出たが、中川村と松川町がこの近隣だとチョイソコを導入している。システムは同じだが、公共交通の状況、具体的にはタクシー含めた交通事業者の営業状況というのが全く違っており、事情が異なる。
中川村の場合は、交通事業者が近隣になく、一応隣接の飯島、駒ヶ根の事業者とも協議をして、かなり制約のない状態で、公共交通としてドアtoドアサービスのチョイソコを主力に手厚く展開することが可能になっている。
対して、松川町にはタクシー事業者があり、現状チョイソコは事業者に委託して運行している。ただ、チョイソコという手厚いサービスを展開したために、本来の一般タクシー事業の利用者がほとんどいなくなって

●田中会長
(副村長)

いる。仮に南箕輪でも同じようなことをやるのであれば、一般タクシーは営業できないということが想定される。
現状、交通事業者として、できることは協力している。利用者の利便性のみに着目して、安易に公共ライドシェアやチョイソコを持ってきて、いいとこどりと行って済ませられるのは非常に心外である。

●山崎委員
(福祉課長)

藤松委員のご意見としては、後発になるので、いろいろ研究して取り入れてはというご意見と受け止めています。
白川委員には事業者として、いろいろ思いがあるところかと思いますが、藤松委員のご意見の趣旨はご理解いただければと思います。
事務局の方で、地域公共交通計画の見直し箇所案について想定案を示していますが、この点その他ご意見はありますか。

●白川委員
(白川タクシー)

計画には、乗合タクシー事業について、当時、事業者としても全村をカバーする運行規模には対応しにくいという記載があるが、現時点では、ぐるっと、または独自の乗合を実施する場合の現実性はどのようなものか。

●田中会長
(副村長)

ぐるっとタクシーの共同運行みたいな形をとるのであれば比較的簡単に導入自体は可能。独自で条件を付すなどであれば、構築が必要にはなってくる。いずれにしても、そのための人員を、デジタルタクシー含めた一般タクシーに従事している人数の中から割く必要が出てくるので、既存の事業に影響が出る可能性があり、協議が必要となる。結局、人員の確保というところで難しさはある。

●事務局

そもそもこれまでの巡回バスとしてのまっくんバスは、「誰でも」ではなく、「交通弱者」を対象としてきたことと思う。
今回の村計画では、「実のある地域公共交通」「真に利用価値の高い」と記載しているが、このあたり対象者についてはどういった考えか。

●百瀬委員
(村議会)

まっくんバスは当初より長らく、交通弱者の足ということで運行してきた。今回の計画策定にあたっては、地域柄、やはり公共交通よりも自家用車が優先されるという状況のなかで、公共交通として果たすべき役割について考えたもの。
公共交通としては、「誰でも」というのは一つ重要だが、村の状況も考えて、本当に公共交通が必要な人に届くように、という計画としている。

●田中会長
(副村長)

会長が先程「誰でも」ではないと言ったが、第5次総合計画に「住みやすい環境づくりを進める村」として、「公共交通については、利用者ニーズを生かした利便性の高い誰にも使いやすいきめ細かな公共交通網の構築を推進します」とある。公共交通を考える上では、交通弱者をどうするかという視点は必要だが、誰でも使えるものでなければ意味がないので、その点よろしく願います。

計画にてどういう整理になっているかを聞きたいために、誤った聞き方をしてしまった。今の点について確実に押さえていきたい。

(2) まっくんバス運行の課題点と対応案について

・事務局より、資料・別紙に基づき説明

●百瀬委員 (村議会)	北殿駅前待機場所については、少し考えていく必要がある。 支援学校の発車時刻を早めることについては、南信工科短大との調整が必要である。 また、朝早い便と夕方遅い便については乗車状況があまりよくないので、検討をしていく必要がある。
●田中会長 (副村長)	状況把握しながら検討をしていく。 また、休止案についても検討していく方向でよい。
●渡邊委員 (長野運輸支局)	全線休止箇所も11月に行う予定か。
●事務局	伊那市地籍を通る路線なので、全線休止については来年度等を予定している。
●渡邊委員 (長野運輸支局)	全線休止及び検討とあるが、休止と同時に新たな系統を始めるのか、先に休止のみ実施するのか。
●事務局	今後の検討課題だが、南原線を全線休止するとバスが1台浮く形になるため、そのバスの活用についても併せて検討していく。
●丸山委員 (伊那建設事務所)	バス利用を第一とし、タクシーでそれを補完する形がよい。そのために、アンケート調査など活用して、バス利用がうまく取り込めればよい。買い物や病院に合わせた時間帯のバスを考えてもよいのでは。
●田中会長 (副村長)	色々貴重なご意見を頂いた。 対応案については、次回また具体的なものを提案し検討をお願いする。

(3) その他

- ・事務局より、前回持ち帰りとした委員の選任の検討結果及び本年度の予定について説明。

●百瀬委員
(村議会)

タクシー券の利用状況について、拡充した 60 枚をもう使い切ってしまったという相談があったか、あるいは個人がどれだけ使っているかという状況が分かれば教えてほしい。また、もう一点、法改正の関係で村としてできる内容が分かれば早めに教えてほしい。

●田中会長
(副村長)

2 点目については、情報あり次第共有をお願いします。
1 点目について福祉課長お願いします。

●山崎委員
(福祉課長)

使い方については非常にばらつきがあると思われる。使い切ってしまったという声は 1 件把握しているが、通院に加えて、お子さんの迎えであったりということに使っていて、使い切ってしまったということ。多くの場合、社協の移送サービスが取れなかった場合にタクシー券を使う場合が多く、全体としては計画的に使っている方が多いのではないかな。

●百瀬委員
(村議会)

村側は 60 枚に拡充したというが、従来はまっくんバスがきめ細かに走っていて使えていた。ただ、病院や買い物など含め毎日乗る方がいる。そうすると 60 枚というのはすぐに終わってしまう。困っている人が使える手段を村として早急に考える必要があり、利用率云々ではなく、しっかりと対応してほしい。

4. その他

5. 閉会

- ・副会長より